

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月14日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21530504

研究課題名（和文） 東京都知事とプロジェクトをめぐるイメージの通時的連関構造分析のためのパネル調査

研究課題名（英文） Voter Panel Research for Temporal Structures of the Governor of Tokyo

研究代表者

森 元孝（MORI MOTOTAKA）

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号：50182209

研究成果の概要（和文）：

本研究の目的は、現象としての「東京都知事石原慎太郎」を経験的データにより再構成することにある。このために、①知事についてのイメージ変数（非政治的領域）、②同（政治的領域）、③オリンピック招致について形成されるイメージ、④都市東京についてのイメージ、⑤日本の政治状況（国政および地方選挙をめぐるイメージ）を諸変数に質問紙を設計。平成21年から23年度まで計6回インターネットによるパネル調査実施。時点比較可能なデータを収集した。これをもとに、現象としての「東京都知事石原慎太郎」という研究書をまとめている。

研究成果の概要（英文）：

A main aim of this research study is on an empirical reconstruction of social figure of the present Tokyo Metropolitan Governor Shintaro ISHIHARA. Each questionnaire is mainly constructed of five variables-groups: 1) on ISHIHARA as novelist, 2) as politician, 3) on his invitation of the Olympic Game to Tokyo, 4) on the life-worldly existence of Tokyo as city, 5) on the political situations in today's Japan. From 2009 to 2012 six researches of the samples' size 800 to 1600 had been preformed. With the outcome I am ready to accomplish a book *Ishihara Shintaro as Social Phenomenon*.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	2,900,000	870,000	3,770,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学 3801

キーワード：石原慎太郎、東京、都知事、オリンピック、ナショナリズム、ポピュリズム

1. 研究開始当初の背景

ポスト冷戦の政治社会における特徴は、1980年代までのイデオロギーによる政治家

選択ではなく、イメージによる選択だと言うことができるかもしれない。これはしばしば「新しいポピュリズム」としてまとめられる。

オーストリアの「ハイダー現象」に代表される 2000 年前後のヨーロッパのポピュリズムや、少し異なる次元で言うことができる「テロへの戦い」という形態のアメリカ合衆国における、やはりトランスナショナリズムとナショナリズムの混交したイデオロギーの出現のことである。

日本においても石原慎太郎東京都知事の登場を、この類例として考えてみる事ができた。政策綱領を掲げ現れる政治家の特異な言動が、嫌悪、批判、反発を生む一方で、他方別次元ではそれらにもかかわらず 300 万を超える得票を可能にする社会が出現したのである。いわゆる「理性的な議論」による政治とは別の次元が、どのようなメカニズムとリソースにより生まれるのかということが問題である。応募者はこれまで当該知事の戦後日本文化現象（石原裕次郎人気など）と、当該政治家を支持する世代との関係について経験的研究成果を公表してきた。

しかし、こうした状況は、欧米の場合と同様に 21 世紀の最初の 5 年間ほどの特徴としては言うことができたが、次の水準に移行したものであると考えることができた。2006 年以降、「東京オリンピック 2016」プロジェクトが当該知事の政策基本軸に据えられ、それまでの「外国人」「治安」とは別のイシューを動員したナショナリズムの政治次元が切り出されているのである。

応募者は、これについて 2006 年（サンプル数 400）、2008 年（同 600）にインターネットによるアンケート調査を実施してきた。また、さらに過去には 1999（同 6400）年、2004 年（4800）、2005 年（3200）に、郵送法により同種のアンケート調査を実施してきた。

2. 研究の目的

前項目の背景をもとに 2009 年 9 月に予定されている国際オリンピック委員会による開催地決定の前と後、さらに半年後、そして 2011 年 4 月の次回都知事選挙前後 2 回の、合計 5 回にわたって、誘致広報（送り手）と都民（受け手）との関係に、当該知事のパーソナリティ特性、オリンピックのイメージ、社会経済状況の推移を重ねて、複雑な時間的推移を再構成できるデータの収集・分析を行い、これら諸変数の連関を詳細に解析することが主要目的である。

3. 研究の方法

Macro Mill 社のモニタから東京在住者を対象にパネル調査(960 サンプル)を実施し、時系列分析（一部パネル分析）として整理・分析していく。

(1) 調査票の整備： 質問数 30 問 960 サンプル。

① [イメージ変数] 知事についてのイ

メージ I [「かついいと思ったことがある」「実行力がある」「自己中心的である」「独裁的だ」「都民の期待に合う政治をしている」「著作や原作映画の多くは面白い」「右翼的だ」「筋が通っている」「時勢を把握している」「時代錯誤だ」「リーダーシップがある」「パフォーマンスが多い」「若さを感じる」「弟のおかげで得をしている」(4 点尺度)]

② 知事についてのイメージ II [「東京都知事として」「政治家として」「作家として」「人物として」(評価について 4 点尺度)]

③ オリンピックについてのイメージ [「都市発展」「スポーツ」「日本のシンボル」「土木事業優先」「二度開催の意味」「財政負担」「著名建築家設計の意味」「石原知事主導の意味」「都市の新しい核」など 2008 年実施のパイロット調査の項目をもとに再設計 (4 点尺度)]

④ 都市東京についてのイメージ [「便利」「雑然」「窮屈」「人口過多」「物価高」など上述パイロット調査での自由回答項目をもとに設計 (4 点尺度)]

① [政治環境変数] 日本の主要政治家について抱くイメージ [主要政治家名について、印象を 4 点尺度でたずねる。散布図として展開する。時系列変化を対象者の政治環境変化として使用する]。

② オリンピック誘致賛否

③ 支持政党

① [対象者の属性] 1995 年以降の東京都知事選挙での投票行動

② 年齢、性別、職業、学歴など基本属性。

③ その他

(2) 調査対象の選定： Macro Mill 社のモニタのうち東京在住者から、性別と 20 歳から 79 歳まで 10 歳さざみで各 12 セルを選び、各セルから 80 サンプル、合計 960 サンプル（最低数）を選定。

(3) 調査の実施状況は以下のとおりである。

第 1 回 平成 21 年 8 月 20 日から 24 日 (質問数 20 問 1444 サンプル)。

第 2 回 平成 21 年 12 月 1 日から 2 日 (質問数 15 問 832 サンプル)。

第 3 回 平成 22 年 8 月 1 日から 4 日 (質問数 20 問 1444 サンプル)。

第 4 回 平成 23 年 1 月 28 日から 30 日 (質問数 13 問 832 サンプル)。

第 5 回 平成 23 年 9 月 22 日から 25 日 (質問数 15 問 1444 サンプル)。

第 6 回 平成 24 年 2 月 9 日から 12 日 (質問数 10 問 832 サンプル)。

4. 研究成果

以下の図1から3は、現代日本の重要政治家についてのイメージ（好感・嫌悪度）の時系列変化である。下図1は、自民党政権期の2人の首相、ならびに民主党政権後の首相のそれぞれ変化である。

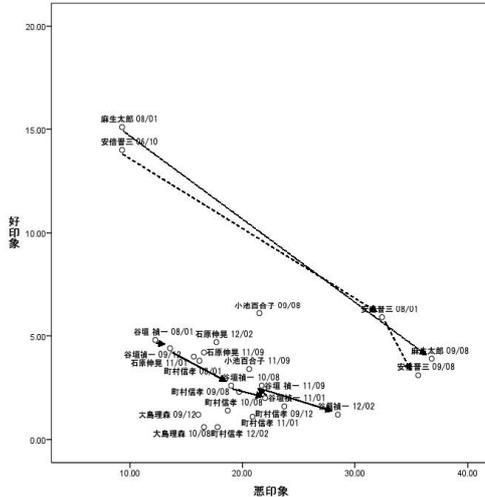


図1

次の図3は、民主党政権成立直後は非常に任期が高かったが急速にそれが萎んでいった政治家の例である。

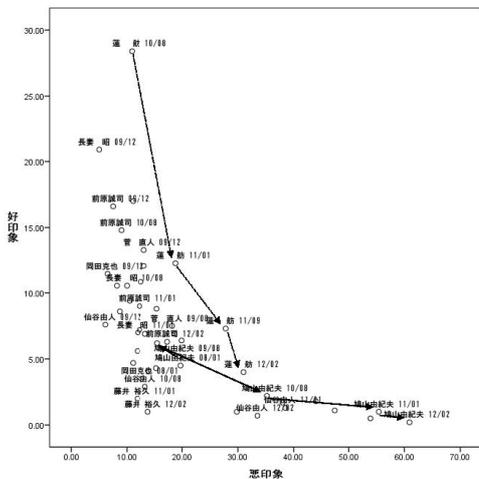


図2

次の図3は、小泉純一郎と石原慎太郎二人の政治家についての同様の時系列変化である。この人たちの場合、長い期間にわたってつねにかなり高い位置を確保している。また、下に位置する二人の政治家は、いわゆる人気という点では低い、この期間、日本政治において強い発言力、存在力を示してきた政治家である。ともに上の二つの図にあらわれる政治家とは異なり、低位であるが安定してい

るという特徴がある。

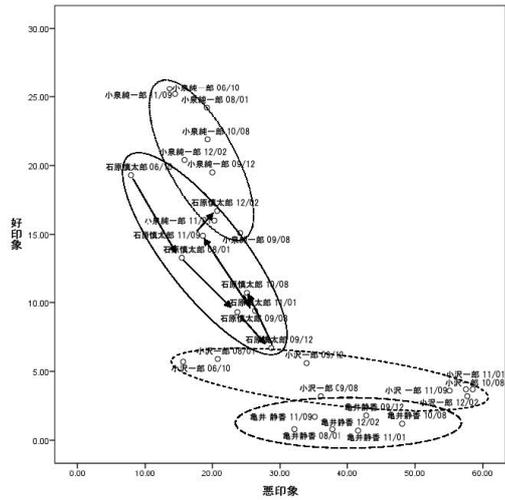
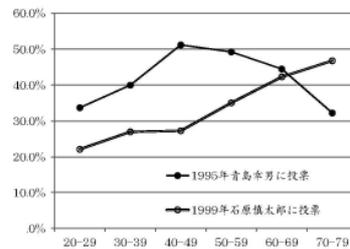


図3

こうした浮動する政治家、浮動しない政治家というイメージを整理し、とりわけ主題である石原慎太郎について分析を試みるにあたって、すでに論者の過去の調査結果(図5)から年代により支持に差があることがわかって



	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	全体
1995年小泉純一郎に投票	33.7%	40.0%	51.2%	49.2%	44.5%	32.3%	44.5%
1999年石原慎太郎に投票	22.2%	27.0%	27.3%	35.1%	42.3%	46.8%	33.3%

図5

また東京都選挙管理委員会が公表している都知事選挙における投票率においても、年代による差が明確である(図9)。石原への支持傾向が高い高年齢層の投票率が高いということが、石原候補の当選に決定的な意味を持っていると考えられる。

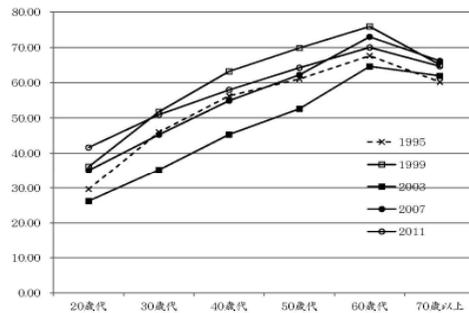


図9

こうしたすでに得られている事実ならびに仮設をもとに、本研究での一連の時系列データの収集は、この年代間にある差について、その具体的内容を社会調査により明確化してみようということにあった。

次の表1は、作家としての石原慎太郎について問おうとした一部の結果である。きわめて多産な作家であり、その中から知られていると思われるものについて、読んだことがあるかを軸に聞いた結果である。

表1 石原慎太郎の作品について

	原作を読んだことがある。あるいは映像作品化されたものを、映画館、ビデオ、DVD、テレビ放映で見たことがある。	題名は聞いたことがあるが、実際に読んだこと、見たことはない。	題名・作品名についてまったく知らない(聞いたことがない)。
1 太陽の季節	28.8	55.0	16.2
2 狂った果実	22.2	58.9	18.9
3 俺は待ってるぜ	14.1	42.9	42.9
4 錆びたナイフ	15.2	44.8	40.0
5 価値混乱者の光栄	1.1	10.5	88.4
6 亀裂	1.5	10.1	88.4
7 処刑の部屋	2.7	13.4	83.9
8 完全な遊戯	2.4	13.3	84.3
9 星と蛇	1.4	10.1	88.5
10 行為と死	1.4	8.9	89.8
11 光より速きわれら	1.0	7.7	91.3
12 生還	2.1	11.8	86.1
13 化石の森	3.5	22.9	73.7
14 「NO」と言える日本	14.8	55.1	30.1
15 弟	13.9	52.0	34.1
16 「父」なくして困るはず	2.0	13.8	84.2
17 いま魂の歌	0.8	11.1	88.0
18 法華経を生きた	1.1	11.2	87.7
19 国家なる幻影	1.5	11.7	86.8
20 聖餐	0.9	10.5	88.6
21 わが人生の時の人々	1.9	11.3	86.8
22 老いてこそ人生	3.5	22.9	73.6
23 日本よ	3.0	16.6	80.4
24 俺は、君のためにこそ死ににいく	2.8	15.7	81.4
25 真の指導者とは	1.2	11.1	87.7
26 私の好きな日本人	2.0	16.1	81.9
27 新・墮落論	1.9	19.0	79.1

N=1444

書物ということ言えば、読んだ経験が1%あるということは、よく読まれているということだが、本に書いてある内容が、この人の魅力を支えているとは言えないであろう。

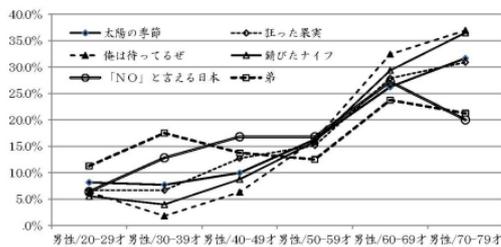


図 10a

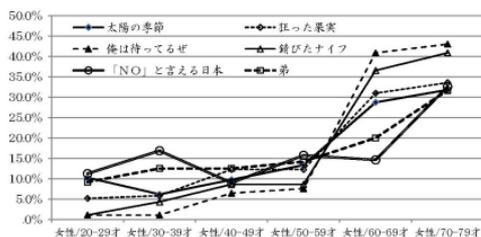


図 10b

上の図10は、映像化された作品について聞いたものである。この場合には、視聴経験の数値が読書経験よりも大きくなるので、年代別の差を確認してみることができる。

石原慎太郎という政治家のイメージは、もう一方で作家のイメージ、とくにその作品がもたらしたと考えられるそれがあると想定される。本調査研究で得られたデータは、このイメージ形成のソースを、年代、性別、職業、学歴、政治意識、社会意識など、複数の変数をつうじて整理していくためのものである。このイメージとして形成される石原慎太郎と、もう一方で進めてきた作家としての石原慎太郎自身が書いてきた作品の内容分析研究とを合わせて、ひとつの研究書を制作途上にある。

内容は、以下のとおりある。

『天使の羽ばたき』が聞こえる —石原慎太郎と日本—

はしがき

第一章 反ポピュリズム

一、消費される政治に抗して

(一) 政治のポップチャート

(二) 選挙民の構造

(三) 素乱と創造

二、「人」という媒体

(一) 文芸表象の帰属点

(二) オリンピックの意味

第二章 反哲学的考察

一、生の意味

(一) 『亀裂』の人間模様

(二) プラトニズム解体

(ア) 行為

(イ) 恋愛

(ウ) 大学

(三) 自我の時間論

二、宗教社会学を凌駕して

(一) 『巷の神々』とは

(二) 宗教発展原論

(ア) 体験と因縁

(イ) 教祖と教理

(ウ) 布教と組織

(三) 多元的現実に対抗して

(ア) 見えない秩序

(イ) 媒体と体系

(ウ) 自我の更新

(四) 媒体と体系

三、信仰告白

第三章 疎ましい他者

一、二つの表現法

- 二、『化石の森』
- 三、『嫌悪の狙撃者』
- 四、回帰への恐怖
 - (一) 嫌悪の記憶
 - (二) 解放の夢想
 - (三) 劇と観衆
- 五、物欲への復讐

- 第四章 人と仕事
 - 一、科学技術と政治
 - (一) 『日本零年』
 - (二) 孤高の唯一無二
 - (ア) 科学者
 - (イ) 企業家
 - 二、政治
 - (一) 非在の政治
 - (ア) 政治家
 - (イ) ブローカー
 - (二) 影と光の観察
 - (ア) ジャーナリスト
 - (イ) 芸術家
 - 三、「NO」と言える人
 - (一) 『NOと言える日本』
 - (二) グローバリズムという罫
 - 四、「NO」と言えた時
 - (一) 『挑戦』
 - (二) 媒体としての仕事
 - 五、世界をめざせ

- 第五章 成功と恋愛
 - 一、経済社会の異同
 - 二、成功譚と悲劇
 - 三、裏社会
 - 四、恋愛の音楽性
 - 五、人生という航路

- 第六章 行為と感覚
 - 一、行為のジャイロ
 - (一) 戦士
 - (二) スポーツマン
 - 二、身体感覚の限界域
 - (一) 性と暴力
 - (二) 舞踏
 - (三) ライディング
 - 三、感覚と言語
 - (一) 天使の言葉
 - (二) 自意識の魔
 - (三) 本物とは何か
 - 四、喪失と再生
 - (一) 盲聾者
 - (二) 愛という媒体

- 第七章 人と国家
 - 一、反プラトニズムのリアリティ
 - (一) 風刺と創作
 - (二) 官報が拓く親密空間
 - (三) 行動主義は美的に可能か

- (四) 議会制と代議制
- (五) 仕事としての政治
- 二、『亡国』
 - (一) あらすじ
 - (二) 杞憂の現実
 - (三) 物質主義と観念論
 - (四) 国家の身体性
- 一日常性の基底
- 三、孤高の選択
 - (一) 好きな日本人
 - (二) 政と愛
 - (三) 社会という媒体

- 第八章 映像と言葉
 - 一、映像という媒体
 - (一) 俺は、君のためにこそ死ににいく
 - (二) 靖国問題
 - (三) 信仰と自由
 - 二、言葉という媒体
 - (一) 日本国憲法
 - (二) 「書いた」主体
 - 三、反古典主義の誠実性
 - (一) 「書く」主体
 - (二) 個の現実、国の現実

- 第九章 天使は再び羽ばたく
 - 一、日本の星と舵
 - (一) 日本海海戦
 - (二) 「円」の源泉
 - (三) 政治の青嵐
 - 二、『生還』
 - 三、選ばれし孤高なる行為者

- 終章 社会とは何か？
 - 一、理論と実践
 - (一) 決断主義と裁量主義
 - (二) 「私」の限界
 - 二、リベラルとナショナル
 - (一) 自由主義者の孤高
 - (二) 断片化する想像のリソース
 - 三、生きる世界と生きる形式

文献
索引

- 5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

- [雑誌論文] (計2件)
- 1. 森 元孝 「テーマ「<東アジア>とは何か? 共生のための地域形成への模索」へ」『Future under construction —交差する知—文化の構想力』(査読なし) 早稲田大学文学学術院、2011年、pp.23-27.
- 2. Mototaka MORI, *Imagining and Imagineering Tokyo – Asking with and to*

the Olympic Games in Tokyo 2016, in: *Quality of Life & Working Life in Comparison* (edited by GYÖRGY SZÉLL & UTE SZÉLL) (査読なし), Peter Lang Verlagsgruppe GmbH, 2009, pp.227-234.

〔学会発表〕(計1件)

Mototaka MORI, "The Post-Populism in Tokyo -The Pop-Charts in Tokyo?" in: The 11th Meeting of the German-Japanese Society for Social Sciences (at Hosei University.) Oct. 9, 2010.

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.f.waseda.jp/wienmoto/Japanese/Study/General/research01.html>

6. 研究組織

(1)研究代表者

森 元孝(早稲田大学・文学学術院・教授)

研究者番号: 50182209